



125th
Anniversary
since 1900

『おかしな日本』

『おかしくない日本』

——1980年版と2024年版SHŌGUNのなかの日本像

講師

相模女子大学学芸学部国際コミュニケーション学科教授
相模女子大学日本学国際研究所研究員

中林正身



2026年 9月26日(土) 14:00 - 15:30 (13:40 開場)
紀伊國屋書店新宿本店 3階 アカデミック・ラウンジ
参加無料・入退場自由

事前に二次元コードよりお申込みをお願いいたします。(先着 30名)
(事前申込なしのお客様も立ち見にてご参加いただけますが、会場の広さの都合上、
ご参加いただけない場合もございます。予めご了承ください。)

申込期限

9/25 (金)
17:00 まで



『おかしな日本』と『おかしくない日本』 ——1980年版と2024年版SHŌGUNのなかの日本像

1975年に出版されたJames Clavellの小説SHŌGUNと、これを基にして制作された1980年版と2024年版のドラマを比較し、戦国時代の日本が外からの眼差しを通してどのように描かれているのかを考えます。

このために、物語の要所となる場面での人物描写、儀礼や生活文化が言葉と映像でどう表現されているのかに目を向けつつ、原作の英語の言い回しも手がかりにしながら、同じモチーフの描出が時代や制作環境の違いによってどのように変化しているかを、いくつかの場面を取り上げて読み、観て、解いていきたいと思います。

あわせて、異文化が描出されるときに生じるズレやオーセンティシティをめぐる問題を、講演者自身の視点から批評的に検討します。

ふたつのドラマ版SHŌGUNにおいて、どのような描かれ方が「おかしくない」と腑に落ちて、なにが「おかしい」と違和感を覚えるのか——そのポイントを示しながら、皆さんとも一緒に考えることができればうれしいです。

講師

相模女子大学学芸学部国際コミュニケーション学科教授
相模女子大学日本学国際研究所研究員

中林 正身



1964年生まれ。

1992年、早稲田大学大学院文学研究科英文学専攻修士課程修了。2006年、英国ノッティンガム大学大学院英文学科博士課程修了。2008年より相模女子大学学芸学部英語文化コミュニケーション学科専任講師を務め、現在は国際コミュニケーション学科教授。D. H. ロレンスや日英米の文化を専門とする。

主な業績に、著書『The rhetoric of the unselfconscious in D. H. Lawrence』（University Press of America）、訳書『作家ロレンスは、こう生きた』（南雲堂）、共著『風土記イギリス—自然と文化の諸相』（新人物往来社）、『英米文学にみる検閲と発禁』（彩流社）、共同訳『イギリス歴史地名辞典〈歴史地名篇〉』（東洋書林）、『ロンドン歴史地名辞典』（柊風舎）などがある。

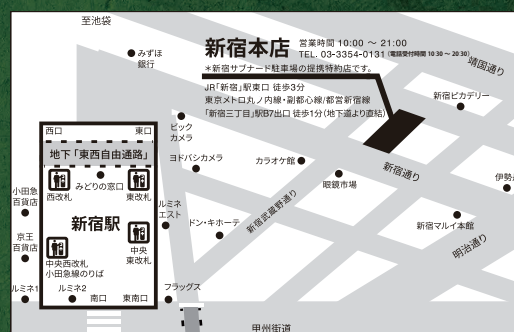
会場・アクセス

紀伊國屋書店新宿本店3階アカデミック・ラウンジ

JR「新宿」駅 東口より 徒歩3分

地下鉄丸ノ内線・副都心線・都営新宿線「新宿三丁目」駅

B7出口より 徒歩1分（地下道より直結）



相模女子大学日本学国際研究所とは…

相模女子大学は、学術研究の拡充と活性化、さらにその成果を国内外に発信する拠点として、2024年4月に相模女子大学日本学国際研究所を開設しました。

本学には人文科学系・社会科学系・自然科学系の教員が在籍し、その研究領域も多岐にわたっており、幅広い研究が豊富に蓄積されています。異なる観点を持つ研究者を多く擁した本学ならではの特性を活かしながら、「日本」を海外からの視点を交えて見つめることで、日本研究の新たな意義を見つけ、国際的な研究を推進します。同時に、研究成果を世界にあまねく発信することによって、本学が注力してきた社会貢献活動にも寄与できると考えます。

世界の側に立った視点で日本を見つめ、日本の立場に立って見えない日本を見つける、本研究所の成果にどうぞご期待ください。

お問い合わせ

相模女子大学日本学国際研究所 suijs@mail2.sagami-wu.ac.jp

研究所
HP



大学
HP

